

【実践報告】

教職実践演習（栄養教諭）の報告

広島文教大学

人間科学部人間栄養学科

准教授 山本 妃奈子

教育学部教育学科

教授 白石 崇人

1 はじめに

本演習は、今年度より単独での開講となり栄養教諭育成に重点を置いた内容に刷新した。授業内容は、学校栄養教育実習Ⅱ（4年次前期開講）や関連科目と連動させ、より実践的な取組となるよう関係機関の協力を得て、習熟度向上に努めた。以下、指導概要と省察を記す。

2 本演習の方針

本演習は教育実践に関する科目で、「教育課程の履修の全体を通じて身につけるべき資質能力を最終的に形成し、その確認を行うための総合実践」と位置付けられる。本演習では、教員に求められる資質として、「①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③児童生徒や学級経営等の理解、④教科等における食に関する指導力」について深化させ、栄養教諭の専門性を活かすために必要な実践力の向上を目指すことを目的とする。

3 授業計画

全15回の計画は、次のように計画した。

回	テーマ及び主な内容
第1回	オリエンテーション及び実習で得た資質・対応力の省察[山本]
	授業内容及び教職履修カルテの確認と教育実習の成果や課題を確認する。
第2回	特別支援教育の意義及び理解[古田（講師）]
	発達障害児のための授業や教室環境について理解する。
第3回	特別支援教育～教職の意義、子どもに対する責務等の理解～[古田（講師）]
	発達障害児等の教育について学修し、教職の意義や子どもたちに対する責任感について考察する。
第4回	地域連携の実際[白石]
	保護者や地域から寄せられる意見等への対応について、事例をもとにロールプレイングを行い、教職員連携のもと、いかに保護者や地域対応を行っていくかを討議するとともに、配慮すべきことや自己課題を整理する。
第5回	栄養教諭の使命感・責任感の涵養[山本、外部講師招へい]
	教育現場において豊かな経験を有する栄養教諭を講師として招聘し、教員・社会人としての基本的能力及び栄養教諭として求められる使命感や倫理観等について、教育現場の取組を実践的に学び、理解を深める。

第6回	学校給食における食物アレルギー対応（事例研究）[山本] 学校における食物アレルギーの事例や教育実習で学んだ対応事例をもとに、事故防止対策を確認するとともに、児童生徒及び保護者への対応や支援計画を作成し、個別対応の実際について認識を深める。
第7回	学校給食における食物アレルギー対応（ロールプレイング）[山本] 食物アレルギーを有する児童生徒及び保護者への指導について、事例をもとに初回面接時を中心にロールプレイングを行い、面談への準備、適切な面談や指導方法、校内での情報共有方法について自己課題を整理する。
第8回	学校給食における食物アレルギー対応（保護者及び教職員との情報共有について）[山本] 教育実習で学んだことを踏まえ、学校給食における食物アレルギー対応の重要なポイントを考察し発表し、保護者対応の際の留意点の確認や校内体制の構築など、対応のあり方について討議する。
第9回	児童生徒理解や食に関する課題について（講義・討論）[山本] 学校における食に関する課題の実態について講義するとともに、教育実習を振り返り、児童生徒の食に関する課題と教育現場における解決へ取組について討議し理解を深める。
第10回	学校給食管理について（講義と討論）[山本] 食に関する指導の生きた教材である学校給食は、適切な学校給食管理と連動していることが極めて重要である。「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」をもとに学校現場での臨地実習を振り返り、安全でおいしい学校給食の実施についての認識を深める。
第11回	地場産物の活用促進と食文化の継承について[山本、フィールドワーク] 教育実習で学んだことを踏まえ、広島市農林水産振興センターへの実地調査を行い、学校給食における地場産物の積極的活用の方策と地域の食文化を子どもたちに継承していく取組について考察する。
第12回	情報技術を活用した食に関する指導について[山本] 教育現場で活用が促進されているICT機器を活用した食に関する指導について、教育実習で学んだことを踏まえ考察・発表し、より充実した指導法の在り方について検討する。
第13回	食に関する指導力について[山本] 学校給食を生きた教材として活用し、義務教育機関全般を捉えた体系的な食に関する指導を展開するためにいかに専門性を活かし、実りある指導につなげていくかについての理解と認識を深める。
第14回	教職員及び家庭・地域との連携のためのコーディネートについて[山本] 児童生徒にとって充実した食に関する指導を共通認識のもと展開していくために、栄養教諭が他の教職員、地域・保護者とのコーディネーター役をいかに果たしていくかについて検討する。
第15回	今後の教育（食に関する指導）の総括的展望[山本] 教職課程、教育実習、教職実習演習で学んだことを総括し、「今後どのような栄養教諭を目指していくか」について、考えを発表し学びを深化させる。

4 授業概要

先述のとおり、本演習は今年度から栄養教諭育成に特化した内容での開講となった。今年度の特徴的な取組として、次の3点を報告する。

(1) 学生の相互学習の強化

本演習を履修した学生は、6名と少人数であったため、教員及び生徒間での多角的なコミュニケーションを図りながらの授業を心がけた。教育実習において肌で感じた学びを分析・言語化し、これまでの学修内容と関連付けながらテーマごとに他の生徒と共有するプロセスは、新たな視点を生み出し、学びを深化させることにつながった。教職課程履修による自らの成長を自覚できたことに加え、相互学習により視野が広がり今後のさらなる研鑽に意欲を見せていることが学生レポートからうかがえた。

(2) 今日の課題への実践的対応～保護者対応を中心に～

教育現場における保護者や地域への対応は、管理職や教職員と十分連携した上で臨むことが重要である。栄養教諭の職務においては、学校給食の提供内容や学校給食における食物アレルギー対応、個別的な栄養指導などにおいて、慎重を期して保護者対応をする場面が想定され、質の高い対応力が求められる。本演習では、第4回授業の「地域連携の実際」での演習内容を第7回授業の食物アレルギー対応の演習へとつなげた。学生は、保護者に寄り添うことの本意を体得できたようで、保護者の思いに寄り添い信頼関係を構築することの重要性を再認識していた。特に食物アレルギー対応では、安全な給食提供のため、対応可能なことと不可能なことを明示し、保護者に理解を仰ぎつつ毅然と対応することも重要であることを理解し、その対応には高度なスキルや人間力向上が必要であることを痛感していた。こうしたソーシャルスキルトレーニングを重ねることは、実践力向上の上で極めて重要であると考えた。

(3) 関係機関と連携した取組

関係機関と連携した取組は以下の2点である。

まず、栄養教諭としての資質向上を目指し、栄養教諭制度創設以来、広島市で活躍されている栄養教諭を招へいし「栄養教諭の使命感と責任感」というテーマで講義をいただいた。どのような姿勢で実務にあたり、一人職種としていかに校内連携を充実させ、教育効果の高い食に関する指導に結び付けているのかを、具体的に講義していただいた。学生のレポートからは、その姿勢に感銘を受け、「目指す栄養教諭像」がより明確になったことがうかがえた。加えて、講師の講義内容をその後の授業でも関連づけることで、これまでの学びの意図がより明確になったこともうかがえた。

次に、学校給食における重点課題の一つである地場産物の活用と食文化の継承について、(公社)広島市農林水産振興センターの協力を得て、広島市における地産地消の取組状況の把握と圃場見学や農産物の出荷調整作業を体験学習させていただいた。こうした取組により、生産者への感謝の念がより一層高まった。食物の生産・流通への認識が深まったことにより、地域と連携した地場産物活用促進に向けていかに生産者とのつながりを持つか、また、栄養教諭として食で学校と地域をつなぐ取組をいかに展開していくかについて、一層具体的に考察できていた。

5 成果と今後の課題

教育実習を経て、本演習で具体的かつ実践的な演習に共に取り組むことにより、これまでの学びがつながりを持ち、3年次までの教職課程や4年前期の教育実習での学びを深化させ、栄養教諭としての自覚を深めることができた。こうしたことは、管理栄養士としての資質向上にもつながっている。加えて、関係機関に協力を得た取組は、学生の習熟度向上にもつながった。

教職実践演習を終えた今、学生は大きな達成感と自己効力感を味わっていることと推察される。栄養教諭を目指す学生は、管理栄養士受験資格に必要な科目の履修に加えて、教職課程を履修しており、その4年間の多大なる努力に敬意を表し、学生のさらなる成長を期待する。

今年度は、本演習を栄養教諭育成に特化した内容で実施する初年度であった。一定の成果は見られたが、今後は、情報技術を活用した食に関する指導や教育現場でのフィールドワークの拡充など、学生の実践力向上を目指し授業内容の充実を図りたい。

謝辞

本演習を実施するにあたり、多大なるご支援を賜った、広島市立翠町小学校栗本淳子栄養教諭、(公社)広島市農林水産振興センターの川原敦係長、在岡郁夫技師、林美穂主事、関係各位に謹んでお礼を申し上げます。